

19 eGFR 低下症例に対する

十全大補湯についての考察（第2報）

沢村泌尿器科クリニック

澤村 新

【目的】十全大補湯の腎機能低下症例に対する改善効果を調べた。

【方法】令和5年度にeGFR値が<60ml/分/1.73平方メートル（以下単位略）であった65歳以上の44症例に、T社十全大補湯エキス顆粒7.5g/日を約3ヶ月投与した場合のeGFR値の変化を調べた。

症例は、男性32例、女性12例。平均年齢77.5歳（65～94歳）、年齢中央値75.5歳。

【結果】十全大補湯投与前eGFR値平均51.5（26.4～59.9）、投与後平均55.9（28.5～76.9）paired T test $P<0.01$ 。eGFR値は改善34例、不変0例、悪化10例。改善率77.3%であった。悪化した症例10例の内4例は明らかに服薬できていなかった。最終的に8例がさらにもう約3ヶ月十全大補湯を服薬した結果、5例は初回eGFRを上回る改善を示し、残りの3例はさらに悪化した。前回報告した令和3年度の65歳以上の42症例の3ヶ月後のeGFR値は改善38例、不変0例、悪化4例で改善率90.5%であり、令和5年度でのeGFRに対する改善率に統計学的な有意差はなく、（カイ二乗検定 P 値=0.097）十全大補湯の効果の再現性は高いと思われる。主な副作用は、他院で降圧剤の追加1例、手やおしりのかゆみ、おならが出やすい1例であった。

【考察】高齢化社会となり、高齢者の腎機能低下症例が目立つ。西洋医学的には今回高齢者のeGFR低下症例は、全身の血管の老化の一部分症と捉え、東洋医学的には五臓論では腎虚を、気血水理論では体を構成する気と血の両方が虚した状態（気血両虚）を老化と考え、補血剤と人參と黄耆を含む補気剤を投与することは有効と思われる。高齢者のeGFR低下症例は腎のみならず五臓全体の気（働き）の低下と考え、今回気血両虚を補う気血双補剤の一つである十全大補湯を投与したところeGFR値の改善効果は単年度のみならず複数年でも認められた。ただし必ず服薬の有無を確認することは大切で、服薬ができていてeGFRが低下しても、できれば半年は継続して服薬してもらい、それでも効果がない場合、生薬の加味や方剤の変更を検討することが必要と思われる。

【結論】十全大補湯は高齢者のeGFR値低下症例に試みても良い処方と思われた。